

授業科目名	看護教育論 <i>Nursing Education</i>		担当教員	本田 多美枝	
開講年次	1年後期	セメスター	2	時間数(単位数)	30 (2)
必修選択	選択	授業形態	講義	使用教室	
授業の目的	看護ケアの質を高めるために必要な看護職者への教育的働きかけ、教育環境づくりを行っていくための能力を獲得するために、看護継続教育の展開に必要な学習・教育の理論や方法論や技術について学ぶ。さらに、現任教育の実践事例の多角的検討を行って、現任教育の現状と課題とを分析し、高度な看護実践を可能にする教育方法を探究する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学教育における継続教育の現状と課題を説明できる 2. 高度実践看護師として、看護職者に対して教育的機能を発揮していくために必要となる学習・教育に関する理論や方法論や技術について説明できる 3. 現任教育の実践事例の多角的検討を行い、高度看護実践を可能にする現場の条件に応じた教育方法を提案できる 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1回 看護学教育における継続教育の位置づけと目的、継続教育の基準 2回 看護職者の学習形態の特徴とその支援① 自らの意志で学ぶこととその教育・支援 (成人学習理論、動機づけ等) 3回 看護職者の学習形態の特徴とその支援② 仕事を通して学ぶこととその教育・支援 (OJT、経験学習モデル、リフレクション等) 4回 看護職者の学習形態の特徴とその支援③ 研修を通して学ぶこととその教育・支援 (off-JT、シミュレーション等多様な教育方法) 5回 対象別に見た看護継続教育の現状と課題① 新人看護職員 6回 対象別に見た看護継続教育の現状と課題② 中堅看護師 7回 対象別に見た看護継続教育の現状と課題③ スペシャリスト 8回 対象別に見た看護継続教育の現状と課題④ 臨床での教育者 9回 現任教育プログラムの展開① 教育のプロセスと教育者の役割 10回 現任教育プログラムの展開② 計画の立案・実施 11回 現任教育プログラムの展開③ 評価 12回 現任教育の実践事例の検討① 13回 現任教育の実践事例の検討② 14回 現任教育の実践事例の検討③ 15回 看護ケアの質向上を牽引する人材として、高度実践看護師に求められている教育的機能について議論する 				
学習方法	授業は、教員による講義および院生によるプレゼンテーションと討論にて進める。プレゼンテーション担当の院生は、前週までに教員および院生に必読文献を提示すること、各院生は事前学習を行い、授業に参加すること。12-14回では、各自のこれまでの教育実践を振り返り、理論や方法論を活用して現象を分析し、考察した内容を発表・討議する。				
オフィスアワー	金曜日の昼休み、もしくはメールにてアポイントをとってください。 t:honda@jrckicn.ac.jp (本田)				
テキスト	特に指定しない				
参考文献	<p>舟島なをみ：院内教育プログラムの立案・実施・評価。東京，医学書院，2007。 福澤英弘：人材開発マネジメントブッカー―学習が企業を強くする―。東京，日本経済新聞出版社，2009。 Benner,P.,et al.:<i>Educating Nurses</i>.2010, 早野 ZITO 真佐子訳：ベナー ナースを育てる。東京，医学書院，2011。 Merriam,S.B.,& Caffarella,R.S.:<i>Learning in Adulthood:A Comprehensive Guide</i>.1999, 立田慶裕・三輪健二監訳：成人期の学習―理論と実践。東京，鳳書房，2005。 三輪健二：おとなの学びを育む―生涯学習と学びあうコミュニティの創造。東京，鳳書房，2009。 その他、適宜紹介します</p>				
評価方法	授業への参加度・プレゼンテーション (50%) レポート (50%)				